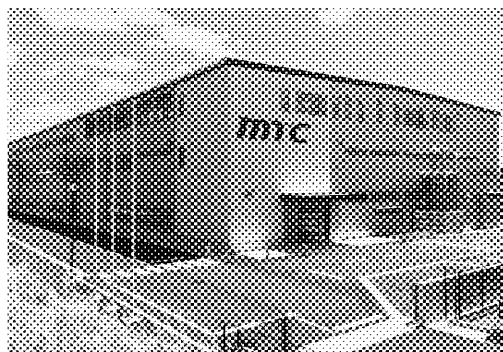


太陽光発電を導入

金属技研 土岐工場で来年度稼働

金属技研（東京都中野区、畑中秀夫社長）は、土岐工場（岐阜県土岐市）でオンサイト型FPA（電力販売契約）による太陽光発電設備を導入する。2024年度中の稼働を予定する。同社が太陽光発電設備を導入するのは初めて。年間発電量は57万8000キロワット時を見込む。再生可能エネルギーの導入で環境対策を加速するほか、電気代高騰による負担軽減につなげる。



太陽光発電設備を導入する土岐工場

工場棟の屋根約2262・9平方メートルに、太陽光発電パネル876枚（容量481・8キロワット）を設置する。同工場の年間電気使用量の約1・2割をまかなえる計算で、電気料金を年間300万円以上削減できるとみている。また導入により年間249トンの二酸化炭素（CO₂）排

出量削減を見込んでい

る。工場には熱間成形機4台や熱間等方圧加圧（HIP）処理装置1台などの設備を導入した。製品を熱処理する際には炉内の温度を1000度C以上に加熱することがあり、消費電力量の多くを占めている。

17年に稼働した同工場は太陽光発電パネル設置にあたり、補強工事が要らない点が導入に適していた。土岐工場に続き、姫路工場（兵庫県姫路市）や群馬工場（群馬県玉村町）においても導入を検討している。